



御幸道路を奉曳（ソリ曳）

11月30日
倭姫宮お白石持奉献団(奉献順)

出発予定時間	奉献順	参加地区
8:00	①二見連合	松下、江、茶屋、三津、山田原、溝口、光の街
8:30	②四郷	中村町、楠部町、一宇田町、朝熊町、鹿海町
9:00	③長峰連合	桜木町、中之町、古市久世戸、桜が丘、五十鈴ヶ丘
9:30	④宇治・二軒茶屋	宇治、二軒茶屋
10:00	⑤倭町	倭町

- 参加者の駐車場はありません。参加団の準備する交通機関、または公共交通機関等をご利用ください。
- お白石奉献は、奉献団以外の一般の方は参加できません。



内宮奉献/倭町奉献団

別宮のお白石持 日程



月夜見宮

開催日程 ※雨天決行

	お白石持行事	遷御
倭姫宮	平成26年 11月30日(日)	平成26年 12月10日(水)
月夜見宮	平成27年 2月22日(日) 実施奉献団/宮後	平成27年 2月28日(土)

※「遷御」は、神様が新宮へお遷りされる儀が執り行われる日です。その前後日に遷宮の諸祭が行われます。参拝停止となる場合がありますのでご注意ください。

別宮
お白石持行事



倭姫宮

市民に望まれ、創設された「倭姫宮」

倭姫宮は、内宮の別宮。約千年前、倭姫命のご功績により、天照大神が伊勢にご鎮座されました。そして、神宮とともに生きる町「伊勢」がはじまりました。



倭姫宮マップ

※微古館・農業館は、耐震工事のため平成27年10月30日まで休館中

内宮別宮

「倭姫宮」(伊勢市楠部町)

伊勢神宮のはじまり

倭姫宮に祭られる倭姫命は、第十二代垂仁天皇の皇女です。その時代より、天皇の皇女は「御杖代(みつえしろ)」として天照大神にご奉仕されるという慣習がありました。倭姫は、天照大神に御鎮座いただくにふさわしい地をみいだすという命を受けて大和国(現在の奈良県桜井市)をお発ちになり、伊賀・近江・美濃などの諸国を巡行のち、伊勢に入られました。そしてそこで天照大神の御神慮によって、伊勢の地に皇大神宮を創設されることとなりました。

それ以来、伊勢の民は、神宮とともに二千年の歴史を刻んできました。ここを聖地として、お導きいただいたことはもちろん、御鎮座のち、神嘗祭をはじめとする年中の祭りなど、神宮の祭祀と運営の基礎を確立されたことは『古事記』『日本書紀』や「倭姫命世記」などにその偉業が記されています。

大正時代にできたお宮

楠部町にある倭姫宮が創建されたのは、ほかの宮社に比べると新しく、大正10年に皇大神宮別宮として倭姫宮の創立が許可され同12年に御鎮座しました。伊勢の地にとって大きな功績があり、倭姫命への崇敬と親愛の念も篤かったにもかかわらず、それまでお祭りされていなかった倭姫命。倭姫宮創建にあたって、地元市民(当時は宇治山田市)の総意として請願され、実現に至ったという経緯

「御杖代」とは天照大神の御杖(つえ)のように一体となり、巫女として神意を仕えるお役目の意味です。倭姫命以降は、代々の天皇が、未婚の皇女を伊勢に遣わして天照大神に奉仕する、斎王(いつきのみこ)の制度ができ、都から斎宮にて、その役割に就かれることとなりました。伊勢の自然・風土と共生する精神文化と伝統は、まさに倭姫命からはじまったといえます。

倭町は御陵のある由縁の地

そんな、伊勢市民になじみ深い倭姫宮のお白石持行事ということもあり、11月の奉献では、内宮領全地域の奉献団とともに、本来は外宮領(陸奥)のまちですが、町名からもわかるように倭姫命と由縁のある倭町奉献団が参加します。

倭町は、外宮領と内宮領の境といえる、古市街道の上り坂を上がった丘陵地周辺。ここには倭姫のお墓とされている尾上御陵(前方後円墳の古墳の跡)があり、倭姫命御陵墓参考地として宮内庁に指定され、名跡として地元でも大切にされています。倭姫宮からもほど近く、倭姫宮を御参拝いただく際には、こちらの御陵にも足をお運びいただいてはいかがでしょうか。

倭姫宮 お白石持行事における交通規制

規制予定時間 7:30~14:00

平成26年 11月30日(日)

雨天決行

規制区間

